

多職種による 難治性高血圧治療

〈大阪〉中津病院
循環器内科診療部長
上月 周

高血圧専門外来を開設。高血圧治療 「腎デナベーション」をチームで支える

2025年10月、当院では高血圧専門外来の開設と同時に、多職種で構成する高血圧腎デナベーション治療の「HRTチーム」を立ち上げました。

腎デナベーション（RDN：Renal Denervation）とは、カテーテルを用いて腎動脈周囲の交感神経を焼灼し、腎交感神経の働きを抑えることで血圧を下げる治療法です。

当院はもともと治療での施行

経験はありましたが、今年3月に保険適用が開始され、複数の降圧薬を使用しても十分に血圧が下がらない「難治性高血圧」

に対する治療法として注目されています。

24時間均一な降圧効果が報告され、不整脈や心不全との関連についても研究が進められています。入院が必要ですが、カテーテルを用いて行なうため、体への負担が少ないとされています。

しかし、すべての高血圧患者が対象となるわけではなく、適応の判断には専門的かつ丁

寧な評価が欠かせません。医師だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士が一つのチームとなり、患者さんを支えています。

多職種チームで 必要な治療を見極める

高血圧は、脳卒中や心筋梗塞、心不全など多くの心血管疾患につながる重要な病気です。一方で、薬や生活習慣の改善によって十分にコントロールできる患者さんも少なくありません。そのため当院では、難治性高血圧だけでなく、高血圧と診断された患者さんに対して、初診時から以下の通り、全身評価と生



筆者の上月さん



HRTのメンバー。前列左から文智映看護主任、循環器内科・間島映医師、上月医師。後列左から迫田彩良看護師、岡本涼香看護師、吉原夏生管理栄養士、辻隆光薬剤師

活習慣の見直しを行なっています。

●病棟看護師……正しい血圧測定方法や家庭血圧の記録方法、生活習慣改善のポイントを説明。普段使用している血圧計を持参してもらい、測定方法まで患者さんと一緒に確認

●薬剤師……薬の作用や副作用、飲み忘れの有無、薬同士の飲み合わせなどを確認し、安心して治療を続けられるよう支援

●管理栄養士……食生活を詳しく聞き取り、塩分摂取量を推定しながら、無理なく続けられる

減塩方法を提案

また、RDNを検討する患者さんについては、多職種カンファレンスを開催し、「本当に難治性高血圧なのか」「生活習慣や薬物療法は十分に行なわれているか」を丁寧に検討しています。

まずは現在行なわれている「既存治療」の

確認と、診察室血圧が正常で普段の血圧が基準以上である「仮面高血圧」の除外を十分に行なうことが重要であり、その過程をチーム全員で共有しています。

RDN一例目を施行 多職種の指導効果も実感

4月22日、保険診療として当院一例目となるRDNを実施しました。初めての症例ということもあり、通常より多くのスタッフが立ち会い、カテーテル室



手術前カンファレンスの様子



RDN・カテーテル手術を行なう上月医師（写真奥）

には独特の緊張感が漂っていました。しかし、事前に何度もカンファレンスを重ね、治療方針を細かく確認していたこともあり、手技は予定どおり約1時間で終了、合併症もなく無事に終わることができました。

治療後2カ月の時点では、血圧の推移を確認しながら、経過観察をしています。

一方で、多職種がワンチームとなって取り組む多角的な高血圧指導こそが、当院の医療の軸

になっています。地域の医療機関からRDN目的で紹介を受けた患者さんでも、生活習慣の改善や服薬指導によって血圧が十分に改善し、RDNを必要としない例を数多く経験しました。医師だけでは伝えきれない内容を看護師、薬剤師、管理栄養士が、それぞれの専門性を生かして患者さんを支えることの大切さを改めて実感しています。RDNは今後さらに発展が期待される治療ですが、誰にでも

行なう治療ではありません。だからこそ、適切な患者さんを見極め、まずは薬物療法と生活習慣の改善を十分に行なったうえ

で、本当に必要な患者さんへ安全に提供することが重要です。高血圧患者さん全体から見ると、まだ専門的な診療につなが

っていない方も多く、今後も地域への啓発活動を継続する必要がありますと感じています。これからも地域の医療機関と

連携しながら、多職種チームによる高血圧診療をさらに充実させ、地域医療に貢献していきたいと考えています。